2019 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第1戦
鈴鹿サンデーロードレース
RACE REPORT

■開催概要

●シリーズ名称　；MFJ公認・承認 2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第1戦　鈴鹿サンデーロードレース
●主催　；株式会社 モビリティランド　鈴鹿サーキット　三重県鈴鹿市稲生町7992
●会場　；鈴鹿サーキット国際レーシングコース・西コース（2輪/3.483km）
●参加台数　；総参加台数/171台
CBR250R Dream Cupエキスパートクラス.....10台
CBR250RR Dream Cup.....20台
インターST600.....1台
ナショナルST600.....24台
ナショナルJSB1000.....22台
インターJP250.....1台
ナショナルJP250.....17台
ST600R（Revival）.....24台
インターJSB1000.....34台
インターJ-GP3.....2台
ナショナルJ-GP3.....16台（内、NSF250R……8台）
●開催日　；2019年4月7日（日）
●天候／路面　；快晴／ドライ

★次回レース予定
2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第2戦 鈴鹿サンデーロードレース
8耐選抜レース<8耐トライアウト FINALステージ>　JP250 4時間耐久ロードレース
■開催日／2019年6月8日（土）・9日（日）
■会場／鈴鹿サーキット国際レーシングコース・フルコース（2輪/5.821km）
■開催クラス／JSB1000<8耐トライアウト>EWC／SST、インター／ナショナルJSB1000、ST600、J-GP3、
インター／ナショナルJP250 4時間耐久ロードレース
■主催／株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。
リザルトページ　http://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。
バトルファクトリーHP　http://www.battle.co.jp/

SUZUKA SUNDAY 2019 SUZUKA CHAMPIONSHIP Round 1

シーズン唯一の西コース大会から2019年の鈴鹿サンデーロードレースが開幕。初戦から激戦が展開された!

「FUN & RUN! 2-Wheels」が行われた4月6日(土)の翌7日(日)に鈴鹿サンデーロードレース第1戦が開催された。
このレースには「純粋にレースを楽しみたい」というエンジョイ派から国内2輪レースの最高峰である全日本ロードレース選手権への昇格を狙うライダーまで幅広い層が集結。小排気量マシンで争われるJP250クラスやJ-GP3クラスには世界を目指す若手も多く参戦している。今回それぞれのクラスに各18名のティーンエイジャーがエントリー。全カテゴリーでの最年少はCBR250R Dream Cup エキスパートクラスに参戦した上江洲葵要とナショナルJ-GP3クラスに参戦した古里太陽の13歳だった。

J-GP3クラスの公式予選ではその古里がインタークラスのライダーを抑えてトップタイムをマーク。ポールポジションからスタートした古里は14歳の濱田寛太と好バトルを展開した末に優勝を果たした。
また、今回は鈴鹿8時間耐久レースあるいはその選抜レースである「鈴鹿8耐トライアウト」のテストとして参戦するライダーもおり、インターJSB1000クラスには34名が参戦。決勝レースでも激しいバトルが披露された。
近年は女性ライダーが多く参戦するのもこのレースの特徴だ。JP250クラスの公式予選ではナショナルクラスの女性ライダーが上位3グリッドまでを独占。決勝レースでも片山千彩都がトップでチェッカーを受けたほか、桐石世奈が3位表彰台を獲得した。

6月8日(土)、9日(日)の2daysレースとして開催されるサンデー第2戦は今シーズン初のフルコース大会。インターST600とナショナルST600の両クラスが8日(土)に公式予選と決勝レースが開催される。また、この大会は「鈴鹿8耐トライアウト」の最終セッションとなる「8耐トライアウトFINALステージ」が行われることでも注目を集めることとなる。今年の鈴鹿8耐への出場権を得るための最後のチャンスだけに激しいバトルは必至だろう。
さらに、第2戦ではJP250クラスの4時間耐久レースも開催される。 この4耐は鈴鹿4耐<ST600>、そして今や世界耐久選手権の最終戦として世界中から注目されている鈴鹿8耐へと続く、鈴鹿の耐久シリーズが描く道筋のボトムレンジを担うレース。これらのカテゴリーでどんな激しいバトルが展開されるのか、今から楽しみだ。

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第1戦 レースレポート（1）

■CBR250R Dream Cupエキスパートクラス／CBR250RR Dream Cup

ポールポジションスタートの鈴木悠大と2番グリッドスタートの梶山采千夏がサイドbyサイドの状態で130Rへ。しかし、トップでオープニングラップを帰ってきたのはスタートで出遅れた3番グリッドスタートの田中風如。それに鈴木、梶山と続く。激しいバトルを展開する鈴木と田中の若干後方を梶山が走行。その3台がトップグループを形成する。そこから梶山が脱落。6周目のスプーン立ち上がりで田中が転倒したことにより、鈴木が単独トップに。鈴木がそのままチェッカーを受け、ポールtoウィンを飾ると同時にCBR250RR Dream Cupクラスのウィナーに。CBR250R Dream Cupエクスパートクラスを制したのは11位の岩月寿樹だった。

CBR250RR Dream Cup仮表彰式　（優勝：鈴木悠大、2位：梶山采千夏、3位：瀬古直樹）

CBR250R Dream Cupエキスパートクラス仮表彰式　（優勝：岩月寿樹、2位：平野佑果、3位：上江洲葵要）

■インター／ナショナルST600

ポールポジションスタートの増田雄基がホールショットをゲット。増田はデグナーカーブあたりまでに早くも後続を引き離すことに成功するが、オープニングラップの200Rで2台が転倒したことにより、赤旗が出されてレースは中断。8周に減算されて行われた第2レースでは綿貫舞空がトップに。その背後に増田、大中真次と続く。テールtoノーズのバトルを続ける綿貫と増田の背後で大中、小野川鉄太郎、羽野慎一の3台が3位グループを形成する。ファイナルラップのデグナーカーブで転倒したマシンがあったことにより、赤旗が出されてそのままレースは終了。増田の総合優勝が決まった。2位は綿貫、小野川が3位入賞を果たした。

ナショナルST600仮表彰式　（優勝：増田雄基、2位：綿貫舞空、3位：小野川鉄太郎）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第1戦 レースレポート（2）

■ST600R（Revival）

ポールポジションスタートの前迫祥平が良いクラッチミートを披露するが、ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの河田陽一。その河田、前迫、3番グリッドスタートの安田侑矢のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。ずば抜けて速いペースで走行する河田と前迫がトップグループを形成。その後方で5台ほどが3位争いを展開する。集団から抜け出した安田が一時的に単独3位に。その後方を井上正光が走るが、井上が安田に接近していく。河田は次第に前迫を引き離すことに成功。レースが終盤を迎えると前迫がラストスパートをかけ、河田に接近していくが、テールを捉えることは叶わず、河田の優勝が決まった。

ST600R（Revival）仮表彰式　（優勝：河田陽一、2位：前迫祥平、3位：井上正光）

■インター／ナショナルJP250

2番グリッドスタートの笠井杏樹が良いクラッチミートを披露して好スタートを切るが、その笠井をポールポジションスタートの片山千彩都がパス。笠井の背後を3番グリッドスタートの桐石世奈、6番グリッドスタートの小野雅治が走る。小野が桐石をパスするが、すぐに桐石が3位に。再び桐石をパスした小野は笠井をもパスして2位に浮上。小野はそのまま片山のテールにも接近していく。片山のテールに張り付いていた小野が満を持して片山をパスするが、片山がすぐにトップに返り咲く。その後も順位を入れ替え続けた片山と小野だが、片山がトップチェッカーを受けてポールtoウィンを飾った。2位は小野。桐石が3位入賞を果たした。

ナショナルJP250仮表彰式　（優勝：片山千彩都、2位：小野雅治、3位：桐石世奈）

■ナショナルJSB1000

3番グリッドスタートの花村峻一が良いクラッチミートを披露すると、オープニングラップから早くも後続を引き離しにかかる。それにポールポジションスタートの香川純が続く。6番グリッドスタートの大須賀俊晴が香川と花村を立て続けにパス。クラッチミートに失敗して出遅れた2番グリッドスタートの喜田優人が大須賀に続く2位に浮上すると、喜田は大須賀にも接近していく。喜田が大須賀をパスしてトップに。しかし、すぐに大須賀が喜田を抜き返す。大須賀、沖永博一、喜田ら5台がトップグループを形成。上位陣はファステストラップを更新しながらファイナルラップまで好バトルを披露。それを制したのは大須賀だった。

ナショナルJSB1000仮表彰式　（優勝：大須賀俊晴、2位：香川純、3位：沖永博一）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第1戦
レースレポート（3）

■インターJSB1000

2番グリッドスタートの西村一之がホールショットをゲット。それにポールポジションスタートの松本隆征、4番グリッドスタートの松永修と続く。松本が2周目の130R進入で西村をパスしてトップに。同じく2周目のデグナーカーブあたりまでに西村以降を1秒近く引き離した松本は公式予選で自身が記録したタイムに近い1分21秒台をコンスタントにマーク。安定した走りを披露しながら周回を続ける。松本、西村、6番グリッドスタートの澤村元章がそれぞれ単独状態に。その後方では3番グリッドスタートの福山京太と松永が激しく4位の座を争う。結局、松本が後続に6秒626ものアドバンテーを築いてトップチェッカーを受けた。

インターJSB1000仮表彰式　（優勝：松本隆征、2位：西村一之、3位：澤村元章）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第1戦 レースレポート（4）

■インター／ナショナルJ-GP3／HRC NSF250R Challenge

ポールポジションスタートの古里太陽が良いスタートを切る。それに続くのは3番グリッドスタートの大庭飛輝。トップグループを形成する古里と大庭が序盤から激しいバトルを展開する。4番グリッドスタートの濱田寛太がファステストラップをマークしながらその2台に追いつくと、濱田は大庭をパス。濱田はさらに古里のテールをも捉える。濱田が一時的に古里をパスするが、すぐに古里が濱田を抜き返す。その後も古里と濱田はテールtoノーズのバトルを展開。大庭は単独3位となる。濱田とのバトルを制した古里が総合優勝を飾ると同時にナショナルJ-GP3のウィナーに。インターJ-GP3を制したのは総合4位の羽根巧だった。

インターJ-GP3仮表彰式　（優勝：羽根巧）

ナショナルJ-GP3仮表彰式　（優勝：古里太陽、2位：濱田寛太、3位：大庭飛輝）

HRC NSF250R Challenge仮表彰式　（優勝：古里太陽、2位：濱田寛太、3位：高橋 直輝）

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第1戦
この日、キラリと光ったライダーに一問一答
Voice of Pick up Rider
-SUNDAY EDITION-

Voice of Pick up Riders -SUNDAY EDITION-
この日、キラリと光ったライダーに一問一答

この日、キラリと光ったライダーに一問一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

ナショナルJSB1000クラス

大須賀 俊晴 選手
(DOGHOUSE＋速心＋STファクトリー／BMW S1000RR)

Q.公式予選は6位でした。どんな予選でしたか。
A.練習走行で新しいタイヤを合わせきることができず、自己ベストを更新できませんでした。でも、BMWのローンチコントロールを使いこなすことができるようになったので、スタートで前に出るのを狙っていました。

Q.最後の最後まで激しいトップ争いが展開される決勝レースになりました。
A..僕のペースでは追いつかれると思っていたので、前に出てからは後ろを見ないようにして走りました。僕のマシンはストレートが速いんです。この順位のまま最後まで走り切ることだけを考えて走りました。

Q.JSB1000クラスで初優勝を飾りました。おめでとうございます。
A..ありがとうございます。今まで11年間レースをやってきました。 昨年からJSB1000クラスにスイッチしましたが、優勝したのは初めてです。ようやく勝てました! 今年はこのままチャンピオンを狙っていきたいです。